

花粉分析

(1) 処理方法

分析試料

分析に供する試料は、およそ 30 g 以上とする。処理量を多くすることにより含有量の少ない花粉（化石）を濃縮し、統計処理上有意な数の花粉（化石）を検出する。

分析処理

分析処理の手順は渡辺（1995）にしたがう（図に示す）。

また、1 ミクロン振動マイクロフィルタ - を使用することによって、処理過程の再現性を高めること。

(2) 顕微鏡による検定・計数

プレパラ - トを生物顕微鏡により 400 ~ 1000 倍で観察し、メカニカルステ - ジによる帯分析により原則的に木本花粉で 100 ~ 250 個の検定、計数を行う。同時に出現する草本花粉、胞子の検定、計数も行う。

(3) 解析法

花粉分析結果の解析手順は、概ね次の通りである。

- 1) 各花粉分類群毎の出現率（パーセント表示）計算と花粉ダイアグラムの作成
- 2) 各地点における花粉消長パターンの読みとりと花粉帯分帯
- 3) 地層対比や古植生・古気候の復元

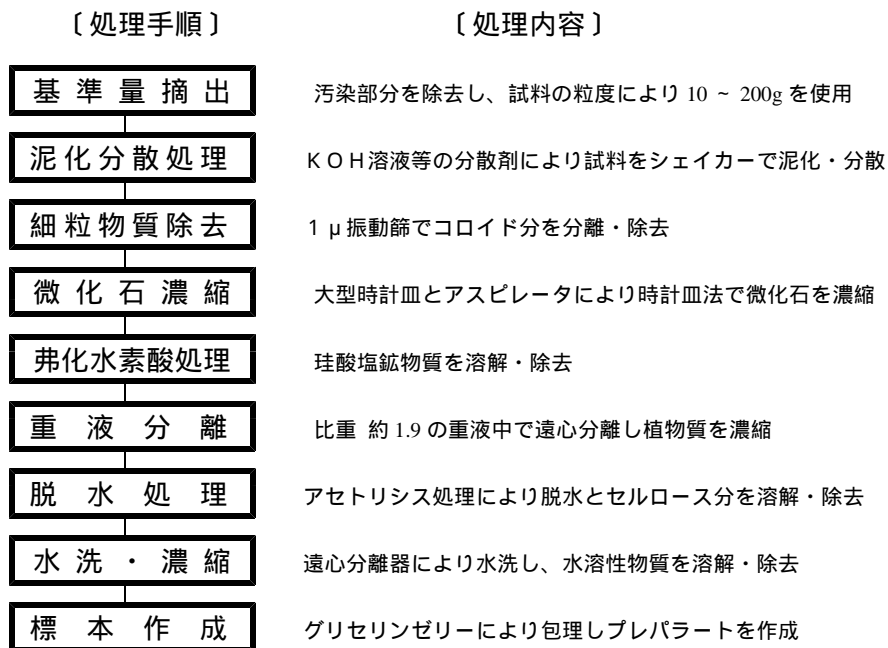


図 1 花粉分析処理フロー